

令和 2 年度第 1 回地域連絡会議報告資料

2020-10-9

NPO 法人 小笠原野生生物研究会

経団連自然保護基金助成、グリーンアノール駆除事業報告

2020 年 3 月 31 日をもって、「グリーンアノールにより壊滅的被害を受けている父島の昆虫相を救う」を目的に実施した、経団連自然保護基金の助成によるグリーンアノール駆除事業が終了しましたので報告します。

なお、駆除活動は今年度以降も当会の負担で継続していきます。

1. グリーンアノール捕獲実績（2017 年度～2019 年度、3 年間）

2017 年度	11,418 匹	
2018 年度	18,663 匹	
2019 年度	18,867 匹	
3 年間累計	48,948 匹	(2020-9-30 現在累計 60,485 匹)

※捕獲方法は手づかみですが、2m 前後の釣竿等の棒の先にネズミ捕り用の粘着シートに粘着剤を巻き付け、竿先でアノールを接着捕獲する方法が最も効率よく捕獲できることが判明しました。

2. モニタリング評価

昆虫相への影響は専門家の調査を待たないと不明ですが、環境省から父島の港湾部におけるトラップによるアノール駆除（属島へのアノール拡散防止のため）の 3 年間の実績を提供いただき、モニタリングの代用としました。

その結果、宮之浜では捕獲数の低減が見られましたが、港湾部（二見港近辺）では低減は見られませんでした。

その意味では、アノールの属島への拡散リスクの低減までには至りませんでした。

港湾部	2019 年度捕獲実績/2017 年度捕獲実績	102.6%
宮之浜	2019 年度捕獲実績/2017 年度捕獲実績	74.7%
合計	2019 年度捕獲実績/2017 年度捕獲実績	93.9%

3. 地域別捕獲累計評価

アノールの生息密度を低減出来れば、父島では絶滅したが、父島の北に隣接する兄島に生息するトンボ類をはじめとする固有種が父島に飛来し、定着することが期待される。そのため、北部での捕獲が望ましい。（専門家の意見）

地域別実績は北部 15,276 匹 (31.2%)、中部（夜明道路沿い）29,931 匹 (61.2%)、

南部 3,741 匹 (7.6%) であった。中部に偏ったが、夜明道路沿いは父島で最も固有生態系が色濃く残る地域なので、**残存昆虫類の保全に貢献した**と考えられる。(想定)

4. その他の関連活動

①講演会の開催

- i. 2017 年 10 月 28 日 **苅部治紀先生** 神奈川県立生命の星・地球博物館、
演題「グリーンアノールと父島の昆虫相について」
- ii. 2019 年 2 月 21 日 **戸田光彦先生** (一財) 自然環境研究センター 主席研究員
演題「グリーンアノールの生態と防除の最新情報」

(2020 年 3 月にも講演会を計画したが、新型コロナの影響で延期となった)

②グリーンアノール捕獲情報交換会の開催 (年 2 回程度)

③グリーンアノール捕獲講習会の開催 (2019 年度 3 回開催)

5. 今後の活動について

この活動は切れ目なく捕獲圧をかけることが必要です。

そのため、本会では、新たに「小笠原の昆虫たちを守る会」を立ち上げ寄付金を募り、継続して、また、母島も含めて活動できる体制を検討しています。

今後ともご指導、ご支援をお願いします。

以 上